

金融経済教育研究授業を通して

群馬県立太田女子高等学校

教諭 小暮 佳央理

1. 研究授業全般について

大きなテーマとして『よりよい人生を過ごすためには、消費生活をどうすれば良いだろうか』と設定した。全3回の授業(65分×3)において、1時間目『人生にはどれくらいお金がかかるのか』、2時間目『家計における経済活動の役割』、3時間目『安心・安全な消費生活の送り方』を本時のテーマとしてそれぞれの時間で設定した。生徒自身に主体的に考えさせながら授業展開を行う工夫を心がけ、その中で金融の働きについて理解を深めながら、金融の役割や望ましい消費生活のあり方について生徒自ら考え理解できるように努めた。

2. 使用教材について

〈1時間目〉

- ・『マナブとメグミのお金のキホン BOOK』
- ・『はじめてのお金の時間』
- ・『生活設計・マネープラン カード/資料集/マネープランシート』

〈2時間目〉

- ・『マナブとメグミのお金のキホン BOOK』
- ・『はじめてのお金の時間』

〈3時間目〉

- ・『マナブとメグミのお金のキホン BOOK』
- ・『はじめてのお金の時間』
- ・『お金のキホン動画』

これらの教材は非常に丁寧でわかりやすく、生徒の興味関心を惹くものであった。特に『マナブとメグミのお金のキホン BOOK』はイラスト等豊富であり、給料明細や社会保険料等、高校生には身近に感じる内容でも、生徒の理解を深めるために大変有効であったと感じる。『お金のキホン動画』についても同様であり、「多重債務について全く知らなかったけれど、とても分かりやすいビデオだった」という感想もあり、生徒に好評であったことがうかがえる。『はじめてのお金の時間』については、本校の生徒の実態に合わせ多少変更したが、授業者側にとっても授業が進行しやすい教材であった。

3. 授業前後での生徒の変化について

金融については本校では本来、第3学年で学習する内容である。今回使用した教材は事前に配布し、その際に生徒からは「経済分野、楽しそう」「金融、難しそう」等、多様な声が上がった。授業実施のクラスは明るく活気があり、普段から授業では活発な意見が飛び交っ

ている。金融経済教育研究授業においても、生徒が自ら考え意見交換する姿を見ることができた。授業後の生徒の感想からは、「これからもお金を通して経済についての理解を深めていきたい」との意見が多くあり、生徒自身が主体的によりよい人生を過ごすためにどうすれば良いか考える有意義な時間になったと感じる。

生徒の感想

- 今までは現金による支払いで済む買い物ばかりしてきたので、電子マネーやカード類での決済について考えるのは新鮮で面白く勉強になった。また、将来の収入・支出について深く学ぶのはじめてだったが、思っていた以上に家計のやりくりは大変で驚いた。高校を卒業すると成人になり、クレジットカードも手にする年齢になることに不安もあったが、今回の学習を通して現実を見て、収入やキャッシュレス決済に注意して自分の生活を見つめ直していきたいと思った。
- 人はお金がなくては生きていけないし、人生の中でたくさんのお金を使う。そのため、日々の買い物の中でも自分がいくら使ったか、残りはいくらかなど確認しながら買い物できたら良いと思った。クレジットカードのようにいつの間にか使いすぎてしまい多重債務に陥ってしまうこともあるので、私たち高校生でも代金の記録やお金の流れをきちんと把握しておくことが大事だと思った。
- 人生の中でどのくらいのお金が必要かということや、クレジットカードのメリット・デメリットを知ることができたので、これからお金を計画的かつ有効的に使うにはどのようにすればよいか考えてみようと思った。また、お金を貯めるだけでなく、人生を豊かにできるようなものにお金を使いたいと思った。
- 今回の授業を通して、消費生活を送るうえで正しい知識を身に付けることが大切であると思った。もうすぐ大人になるということを自覚し、学んだことを生かして責任のある行動を取りたい。
- これから先、様々な経験をして生きていくには、とてもたくさんのお金が必要になることが分かった。普段、身近にありなくてはならないお金の使い方やカードの仕組みなどを知ることができたので、将来、計画的な使い方をしていきたい。金融についてゲームや映像などで分かりやすく学ぶことができた。